

## 2023年1月26日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- 本日、私からは3点お話しいたします。
- はじめに、「柏崎刈羽原子力発電所3号機の高経年化技術評価書の訂正」についてです。  
お手元の資料にある通り、今月23日に本件に関する当社の考えについてお知らせをさせていただきました。
- 当社の調査により、150箇所を訂正すべきと考え、原子力規制庁へ報告させていただいたものです。内訳については、「解析の誤りが1箇所」、「設備情報の転記ミスが18箇所」、「その他修正すべき設備情報が131箇所」となります。
- 私自身、この150の訂正箇所全てに目を通しました。特に、評価書作成時に設備情報を確認できなかった箇所については、高経年化評価結果に影響を与えない補足情報であることを一つひとつ確認していたことを、担当者と直接話をする中でも確認いたしました。

- 一方で、2号機の設備情報を参照したというプロセスを評価書に記載していませんでした。担当者も含めて原子力安全の観点からも問題ないことを確認して評価書を作成したとはいえ、評価書提出時に原子力規制庁へその旨をご説明し、他の手段・方法なども含めてご相談をすべきであったと考えております。
- 今回の事案は、ミスが起きやすいとされる「初めて」、「変更」、「久しぶり」の3Hの業務にあたります。

当初考えていた方法と異なる対応を行う場合などには、いつも以上に関係者間でコミュニケーションを取る必要があるにもかかわらず、それが十分に行われていませんでした。
- 所内や委託先はもちろんのこと、原子力規制庁に対しても、より密にコミュニケーションを取りながら対応を進めるべきでした。
- 先日の規制委員会の審査会合においても、炭素鋼の材料記号などの情報を記載すべきか、議論させていただきたい旨をお伝えし、「そのような議論はすべき」とのお話もいただいております。
- 今後、規制庁とも相談しながら、対応について検討してまいりたいと考えております。

また、所員へは、本件に関わらず、3Hの時は十分に注意を払いながら作業を行うよう、あらためて伝えてまいります。
- 2点目は、7号機の循環水系配管の欠損に関する内容についてです。櫻井市長からのお申入れに対してお答えした中で、推定原因をより補強するために調査した内容についてご説明いたします。

○ 資料1の5スライドをご覧ください。

切断面を電子顕微鏡で観察した結果です。左側の青枠で囲った写真をご覧くださいと、欠損部の端部が鋭角的に残っており、典型的な腐食による欠損と評価しております。

また、黄色の枠で囲った写真をご覧くださいと、外面塗膜と配管母材の間に腐食による隙間が見られることから、損傷確認時より前に金属部分は貫通していたものと推測されます。

○ 9スライドをご覧ください。

ここからは、腐食が円形になった推定要因についての調査です。

まず、表面に塗膜がない炭素鋼配管の場合、腐食は平面的にほぼ均一に進行いたします。一方で、硬い表面塗膜があり、局所的に塗膜が欠損している場合、腐食は同心円状に拡がりやすい傾向にあります。

○ 11スライドをご覧ください。

塗膜の下で腐食が進行する状況について、切り出した配管の一部を使用し、人工的に短期間で腐食を進行させた結果、今回の欠損と同様に同心円状に腐食が拡大することを確認しました。

○ これらの結果、推定原因としては、これまでに公表させていただいた通り、「配管内面の塗膜に傷がつき、塗膜の下で腐食が拡がり欠損に至ったもの」と考えております。

なお、皆さまの後ろに切り出した配管と再現試験の結果をご用意しておりますので、まだご覧になられていない方は、会見後にご覧ください。

- 13スライドには、今後の対応方針を記載しております。  
これまでにお伝えしてきた内容に加え、7号機循環水系配管全範囲および6号機ボール捕集器出口配管については、今年度内を目標に点検を行う予定です。  
また、配管内が湿潤環境となる可能性がある1・5号機のボール捕集器出口配管についても計画的に調査を行う予定です。
- あわせて、その他の配管概要や他電力の類似事例、補修前後の状況に関する資料もご用意しておりますので、後ほどご確認ください。
- 3点目は、今年24日に核セキュリティ専門家評価委員会より受領した第二回報告書についてです。
- 委員会からは、当社のセキュリティパフォーマンスが全体として向上していることについてご評価をいただいた一方で、核物質防護上の不適合事案が継続して発生していることについてはしっかりと改善することなど、様々なご指摘をいただきました。
- また、板橋委員長から「急速に進んだ改革に伴う歪（ひずみ）・弊害」が無いか調査、発見し、改善することの必要性についてご指摘いただいております。
- そうしたご指摘内容に該当するものかは分かりませんが、これまで私自身も所員や協力企業の方々との対話活動の中で、例えば、「業務の繁忙感がある」などといった意見も聞いております。  
今後に対話活動などを通じて、今回ご指摘いただいた歪・弊害といった兆候がないか、あらためて所長として責任をもって確認してまいります。

- また、今回いただいた提言にある「持続可能な取り組み」にしてい  
くことの重要性については、我々も認識しているところです。今後も  
セキュリティパフォーマンスの向上を持続可能な取り組みとなる  
よう進めてまいります。
- 最後になりますが、去年は改善措置活動や原子力改革を「しっか  
りと継続し、着実に定着・浸透」させることに力を入れ、中でもコミュ  
ニケーションや信頼関係の改善を中心とした原子力改革に発電所  
全体で取り組んでまいりました。
- しかしながら、先ほどご説明した3号機高経年化技術評価書に  
関する対応を鑑みると、発電所内・所外問わず、コミュニケーション  
に関しては、その取り組みが途上にあり、発電所が目指すべき姿の4  
つ目にある「発電所で働く全ての人々が円滑にコミュニケーションを  
図っていること」にはまだ到達していないと実感したところです。
- 今年も発電所が目指すべき姿の4つの柱を中心に取り組みを進め  
てまいります。これからは私が先頭に立って、コミュニケーション  
の改善をはじめとする、原子力改革にまい進してまいります。
- また、30日からは地域の皆さまへの説明会も開催いたしますので、  
地域の皆さまの声をしっかりと拝聴し、発電所の運営に活かして  
まいります。  
それらの取り組みを一つひとつ積み重ね、行動と実績でお示しをし、  
地域の皆さまにご信頼いただける発電所を目指してまいります。
- 本日、私からは以上です。